

テーブルの向こう側から 補足資料 ～Vol.33～

2020年7月発行

TABLE FOR TWO(TFT) プログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTFTプログラム実施のため、多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。

TFTの活動は日本でのヘルシーな食生活の推進と、支援先での学校給食の提供が両輪になっています。ニュースレター「テーブルの向こう側から」では、支援先の様子と日本国内のTFTプログラムご参加団体のユニークなお取り組みについてお伝えしています。

食堂をご利用される皆さまに親しんでいただけるよう、改良を重ねてまいりたいと考えております。皆様からのご意見やご感想をお聞かせいただけますと幸いです。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大を受けた支援地域での対応

今年に入ってから世界中で感染拡大を続ける新型コロナウイルス感染症は、TFTの支援先の国々でも多大な影響を及ぼしています。3月以降、支援先各国でも政府の方針で学校や幼稚園が休校になり、子どもたちの生活も一変してしまいました。

TFTでは、各地の状況の調査やヒアリングを踏まえ、給食プログラムを続けられるように現地の支援プログラム提携団体のスタッフと連携しながら対策を講じています。一部地域では食料価格が上昇し、失業が増加するなど、日常生活への影響は甚大です。そのような中、食事や栄養面の支援はこれまで以上に大きな意味を持つようになっています。

日本国内での活動状況のお知らせ

<これまでに寄せられたご寄付> *TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

累計 **7,652万9,893食分** (2020年5月時点)

東アフリカとアジアの5カ国（エチオピア、ケニア、タンザニア、ルワンダ、フィリピン）で学校給食の提供と菜園・農業支援を推進しています。

<7/8 TFT活動報告会を実施しました>

年に一度開催しているTFT活動報告会を、初めてのオンラインセミナー形式で開催いたしました。当日は、150名ほどのTFTご担当者様にご参加いただき、支援先での活動、国内外での取り組み、またコロナ禍における企業様の施策についてお話をさせていただきました。

TFTはこれからも、温かなご支援を継続いただく皆さまに、定期レポートや活動報告会を通じて、支援先の様子や国内外での取り組みをお伝えして参ります。

Facebookページで情報発信中



www.facebook.com/tft.jp/

アフリカでは36万人の新型コロナウイルスの感染が報告されています*。6月末の統計では世界の新規感染者の約75%を新興・開発途上国が占め、アフリカが今後の感染拡大の中心地になると懸念する専門家もいます。

ウイルス検査を大々的に実施するインフラが欠けていることや、農村地域の医療体制の不備から、多くの国で感染の実態がつかめていないという指摘もあります。

東アフリカのエチオピア、ケニア、ソマリアなどにまたがる地域では、バッタの大発生による農業被害も起きており、食糧不足や食糧価格の高騰も懸念されています。



* WHO発表。2020年7月6日時点

休校措置で約16億人の児童・生徒に影響が

2020年3月以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により、各国政府が休校措置を取り、全世界の児童・生徒や学生の9割にあたる16億人が学校に通えなくなりました*。

東アフリカの多くの国でも、国内での感染者数が増加する前から、休校を含む対策が講じられました。子どもたちにとっては教育機会を失うだけでなく、学校給食が食べられなくなることで、心身の健康の維持にも大きな影響が出るのが懸念されています。

TFTではスタッフの安全を確保しつつ、休校中も変則的なかたちで給食プログラムを継続しています。



休校期間中も食事・栄養支援を継続

ルワンダのバンダ村では、休校が決まってすぐに給食の代替案の検討を始めました。まずは保育園に通う児童を対象に、調理前の雑穀や砂糖を詰めた紙袋を、各家庭に持ち帰る仕組みを整えました。

なるべく接触機会を減らす必要がある一方で、一度に多くの食材を配布してしまうと、母親が一日分の量を把握できなかつたり、両親や家族が調理後のお粥を食べてしまうケースが増えることも懸念されました。何回かのトライアルを踏まえて、週に3回の配布で対応することになりました。

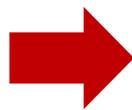
これまで給食の調理や運搬をしていた人たちに食材の梱包を担ってもらうことで、彼らが仕事を完全に失ってしまうことも防ぐことができます。



学校や幼稚園の許可を得て、休校中も給食継続が可能に

バンダ村の小中学校では食材の持ち帰りではなく、休校期間中も週3回の給食を実施しています。生徒に時間シフト制で登校してもらい、距離を保ちながら食事をしてもらうことで、密集や密接を防いでいます。生徒は食後に、学校で行っているコミュニティ活動に参加してから帰宅します。

5月からは幼稚園でも登園して給食を提供することが可能になりました。子どもたちの様子の把握が容易になり、親が食事を準備する負担も軽減されました。



幼稚園での給食の様子です。

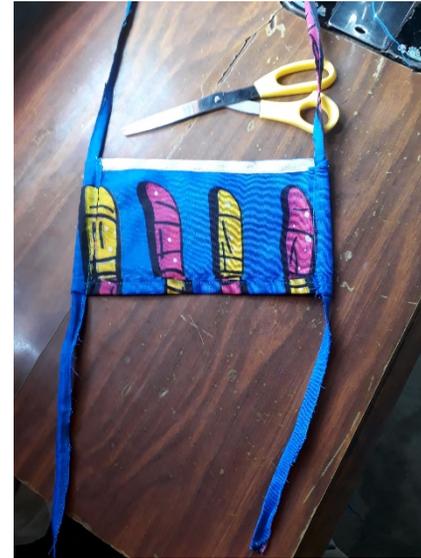
以前は8人程度の子供が一つの机を囲っていましたが、現在は1~2名になるようにシフトを組んだり、一部の子どもには屋外で食べてもらうなどの工夫をしながら給食を提供しています。

縫製を仕事にする女性が布マスクを製作

ケニアやルワンダなど東アフリカのいくつかの国では2020年4月以降、公共の場などでのマスク着用が呼びかけられています。アフリカ各国ではマスクを着用する習慣がなく、不織布マスクの流通量も少ないため、布製のマスクが主流です。洋服の縫製を生業にしていた女性たちが、カラフルな布地でマスクを製作するようになりました。

ケニアのルシंगा島では、マスクの型紙配布や正しい着用方法の周知などを行っています。完成したマスクは地元の市場で1枚30円前後で販売されています。

ルシंगा島では、休校中は週に3回、給食の食材を配給しています。食材の梱包や配布時には、現地スタッフはマスクを着用して作業をしています。



手洗い場の設置

アフリカ各国でも新型コロナウイルス感染症対策のために、手洗いの大切さが強調されています。TFTの支援先地域は水道が整備されておらず、住民の多くは雨水をタンクに貯めたり、近くの井戸や川から汲んだ水を使っています。石鹸は地元住民でも購入可能な価格で入手も容易ですが、石鹸での手洗いは習慣としては身につけていませんでした。

ケニアのルシंगा島、ムファンガノ島では、手洗い場の設置を進めています。

正しい手の洗い方や、どんなときに手洗いが必要なのか、といった点についても、イラスト付きのポスターを使って啓発活動に取り組んでいます。

